高野山で差別戒名追善法会がおこなわれる

5月7日、高野山大伽藍金堂で「差別戒名追善法会」が、中西啓寶・管長はじめ全山あげてとりおこなわれた。法会は、差別戒名をはじめ差別に苦しめられてきた故人の冥福を祈り、差別撤廃と平和を祈願して毎年この日にひらかれ、今年で34回を数える。

法会には、和歌山県内外から宗教関係者や行政、研究機関、運動関係など多くの人が参列した。

読経のあと、宗派を代表して添田隆昭・宗務総長があいさつをおこない、とくに参加した若い僧侶に差別戒名やお札など以前の宗団の差別行為をふまえ、部落差別の撤廃に向けたとりくみを継承していくことの意義を訴えた。

最後に、参列者を代表して坂本三郎・中央執行副委員長が法会への謝辞のなかで「今なお悪質な差別事件があとを絶たないという状況のなかで、昨年『部落差別解消推進法』が制定されたが、この法を実効あるものにするためには、さらに具体的な運動が必要」と述べ、宗団の一層のとりくみを要請するとともに、当事者団体としての決意を述べた。法会は、厳粛ななかにも差別撤廃への決意に満ちておえた。なお、この日の法会には、県連から池田清郎・副委員長、宮本修作・書記長が参加した。

昨年の法会のようす

主張

さらなる前進にむけ、同盟員一丸となってまい進する

先日、部落解放同盟和歌山県連合会第62回大会が開催され、約300人の代議員のもと、昨年の活動報告、決算報告、そして今年度の運動方針、予算案が議論された。とくに、昨年は12月に「部落差別解消推進法」が制定されたことについて、各来賓からあいさつされた。

県選出の国会議員として、岸本周平・衆議院議員（民進党）が法制定を契機にさらなる人権の法制度確立をとあいさつされた。また、この法案に当初からかかわってこられた自民党・部落問題に関わる小委員会の事務局長を務めてこられた、門博文・衆議院議員は、法律の名称・呼称の問題も含めしっかり議論をすすめてきた。今後は、この法律の存在を国民に啓発していくことが重要と延べられていた。確かにそうである。いくらよい法律ができても、誰も認知していないと法律の主旨や成果が上がってこない。そういう意味では、歴史に残る大会になったのではないかと思う。

私たち部落解放同盟もこの「推進法」が成立以前から学習を機会のあるごとに深めてきた。また、実行委員会に加盟している団体や宗教界・労働組合など広く県民に訴えてきた。今回、この「推進法」が成立したことで、2002年3月の法失効後、あらためて部落差別をなくしていくための「法的根拠」ができた。これまでの14年間の法失効後の問題点を明らかにし、行政の窓口問題や位置づけなどの問題について交渉していくことが重要となっている。

法律の「第1条」の理念には「部落差別は現存する社会悪」とうたわれている。まさに52年前の「同和対策審議会」答申の宣言法的部分が生まれたのもであり、今後さらなる実効性のある差別の禁止・被害者の救済を盛り込んだ人権の法制度を充実させていかなければならない。

また、今回の大会で障がい者対策・青年の就労問題・NPO組織の連けいと就労に結びついた情報提供などさまざまな意見がだされた。これらの意見を各運動部で精査し、今後の部落解放運動に反映させていなければならない。

狭山事件をあらためて学習

紀の川市人権講座

第40回紀の川市人権講座を5月12日、古和田会館でひらかれ、行政や各支部など、104人が参加した。

主催者を代表して、飯田敬文・人権行政紀の川市実行委員会会長から「この人権講座は、18年前からこつこつと積み上げ、今回で40回目をむかえる。これまで多くの方がたに参加いただき、人権について学習を重ねてきた。今後もひとりでも多くの人が人権について考え、学習することができるよう、つづけていきたい」とあいさつした。来賓に、尾上之生・市民部長、川端真理・那賀振興局地域振興部長からあいさつがあった。

講師に、山根健二・部落解放大阪府民共闘会議事務局次長をむかえ「部落差別による冤罪―狭山事件を考える―」について講演された。講演冒頭「次は私の番～動き始めた狭山裁判」を鑑賞し、狭山事件の基礎を勉強した。その後、なぜ石川一雄さんが逮捕されたのか。見込み捜査の背景にあった部落差別の現実を具体的にわかりやすく勉強した。

参加者から、わかりやすく、また参加したいなどの声があった。

次回の開催は今秋の予定。

解放新聞県連版第187号3頁「西光万吉偲ぶ会」で那賀振興局長の名前が間違っていました。訂正してお詫び申し上げます。

若林誠地・那賀振興局長と記載していましたが、正しくは若林誠治・那賀振興局長でした。

各地でメーデーひらかれる

第88回和歌山県中央メーデーが4月30日、和歌山城砂の丸広場でひらかれ、和歌山市ブロックから約50人が参加し、狭山パンフビラの配布とお城の周りでデモ行進をおこなった。今年は「長時間労働の撲滅、ディーセント・ワーク（働きがいのある人間らしい仕事）の実現、今こそ底上げ、そこ支え、格差是正の実現を」とスローガンをかかげ、デモ行進した。

式典では、仁坂吉伸・県知事をはじめ、多くの来賓が出席するなか、小林茂・連合会長から「国会に提出された労働基準法改正案は、裁量労働制の見直しなどにより長時間労働を助長しかねず、是正を図らなければ残業時間の上限規制は絵に描いた餅になってしまう」とあいさつがあった。当日は晴天にめぐまれ、総勢6500人が参加し、昼からは模擬店やチャリティーバザーなどもあり、家族づれや多くの人たちでにぎわった。

労働者の待遇を改善しようと訴える小林連合会長

東牟婁地域のメーデーのようす

文化の窓

「完結版アーシアンI」

著者：高河ゆん
発行：集英社　発行日：2002年10月3日
ISBN478-4-420-22038-4

「正が1万個チェックできれば地球は生き残れる」という言葉ではじまるこのファンタジー漫画は、1987年に初出した。正と負の調査員がレポートを提出し、1万個のチェックで地球の存続と滅亡が決定する。環境破壊、放射能汚染、戦争など、現在、私たちが直面するさまざまな問題に警鐘を鳴らす一冊。

◆お問い合わせは県連・教宣部まで
TEL 073－473－2301